

080901-9月2日配布版

企画素案:

(仮題)「09年夏季ワークショップ “生物多様性と人間の未来”

— 2010年生物多様性条約 COP10 愛知・名古屋会議に向けて—

企画創案者: **中静透** 東北大学大学院生命科学研究科教授

GCOE (環境激変への生態系適応に向けた教育研究) 代表

**足立直樹** 株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役

「企業と生物多様性イニシアティブ」事務局長 [www.jbib.org/](http://www.jbib.org/)

**黒坂三和子** JCSD 事務局長 <http://www.jcsd.jp/>

企画協力: 市田則孝 バードライフインターナショナル・アジア代表

足立治郎 JCSD 事務局次長、JACSES 事務局長

私たちは、有志とともに、10月から月1回程度の勉強会(意見交換会)を(東京時には準名古屋で)を開きながら詳細な企画内容の詰めと準備を進めてゆくことを検討している。

## 1. 趣旨案

現在すでに各地で先駆的に取り組んでいる様々な団体や関係者が、2010年10月開催予定の「生物多様性条約 COP10 愛知・名古屋会議」に向けてより包括的に有機的に効果的に前進させることができるようにと、(仮題)「09 夏季開催ワークショップ “生物多様性と人間の未来” — 2010年生物多様性条約 COP10 愛知・名古屋会議に向けて」を企画する。

地球生態系に人間の活動が及ぼしている危機的現状を背景にして、「生物多様性条約」の制定背景、主旨と進展状況、「ミレニウム生態系評価」の意味と成果、2010年の会議の意味・達成目標等を理解し、各組織や個人が様々な展開する活動の情報を共有し、それぞれの役割と位置を明確にして効果的な準備を進めるように提案するとともに、2010年の愛知・名古屋会議を機会にして、地球の生命系(生態系)と人類の未来に対して、日本人が果たすことのできる歴史的な役割を探求しつつ、2010年の本会議に向けて具体的な提案をまとめることを目的とする。

## 2. ワークショップにおける達成事項案

(1) 地球生態系(生命系)に係る各種国際条約等の把握— 制度のマッピング化

- ① 生物多様性条約の総合的な理解 (制定初期背景・その主旨・条約の軌跡・実績・現在の段階における2010年COP10の達成目標案)
- ② ミレニウム生態系評価の総合的な理解とCBDとの関係 (プロジェクト立ち上げ背景・成果・その活用の展開状況)
- ③ 上記に関連する事項の国際的展開状況の把握

(2) 多様に展開する事例(問題・成功含め)の概要の把握— 実践事例のマッピング化

④ 各国政府の各種好事例

⑤ 民間の具体的実践好事例(企業・学术界・NGO/NPO・メディア等)

(3) 多様な文化における倫理(モラル)・思想・価値観・宗教観の概要把握

(4) 提案(提言)事項

⑦ 準備段階に対して

⑧ COP10の達成目標に関して

⑨ COP10を超えての目標に関して

### 3. 日本にとってのワークショップ開催意義

1) 国際条約の成立の背景を理解するとともに、政策的アプローチの意味・方法・その実践を学ぶ。日本人がこれまで弱かった国際的な制度設計(理念、科学的データに基づく政策分析手法等)を学ぶ機会となるだろう。

2) 日本人やアジアの人々が失いはじめている自然との係りにおける倫理感(宗教観)について欧米の人たちと意見交換しながら、21世紀の自然との創造的なつながりを支えることができる倫理(規範)を探求し提案し、世界の人々とともに持続可能な未来へのビジョンを描き出す機会にできるだろう。

3) 日本において、ひとり一人が健康に生きるうえで、多様な生態系や多様な生命の存在が不可欠であるという基本的な理解と認識が深まり、生命学・生物学・生態学が農林水産業ばかりでなく、福祉や医療、教育、経済とつながっている意味を理解し、認識が深まる機会とする。ひいては、日本の経済活動が地球規模で様々な影響を及ぼしている現況に対する認識が深まり、具体的で先駆的な対策を導入させ、世界各地で実践することによって、地球規模の生態系サービスの保全・維持・回復に貢献することができるだろう。

### 4. 開催主体案

共催: 中静 GCOE, JBIB, JCSD, (COP10支援実行委員会)他希望組織・団体

協力 及び後援団体: (今後依頼)

### 5. プログラム素案及び参加(招待)予定者

1) ワークショップ・国際シンポジウム・フィールド視察: 3-4日間 (東京・名古屋)

2) 特別講演: James Gustave Speth (生物多様性条約初期制度設計者)

Jonathan Lash (ミレニウム生態系評価プロジェクト発想・立ち上げ者)

Walt Reid (生物多様性条約制定基礎資料作成者・ミレニウム生態系評価プロジェクト発想・立ち上げ、5年間 MA 事務局長)

Prof. H Mooney (DIVERSITAS の議長、IMoSEB)

Calestous Juma, Angela Cropper (生物多様性条約及び MA に参加)等

3) 参加(招待)予定: CBD 事務局・MA・IUCN・UNEP-FI 各関係者、アジア地域での実践者

4) 日本国内参加(招待)予定者: 関連する多様なセクター関係者

## 主要背景資料

### 1) 最新の主要資料

- ① 『生物多様性の未来に向けて—大学講義のためのプレゼン教材』 2008年7月  
編集代表: 畑田彩、市川昌広、中静透 発行: 総合地球環境学研究所 2008
- ② 『企業の生態系サービス・レビュー (The Corporate Ecosystem Services Review—Guidelines for Identifying Business Risks and Opportunities Arising from Ecosystem Change )』 WBCSD, MI, WRI, 2008.3  
足立直樹氏日本語訳に協力
- ③ 翻訳) 生態系サービスと人類の将来—国連ミレニアムエコシステム評価 (単行本)  
[Millennium Ecosystem](#) (編纂), [横浜国立大学 21世紀 COE 翻訳委員会](#)

この他、様々な生物多様性や生態系に関連する書籍が発刊されているが、ここでは省略。

### 2) 自然保護に係る各種条約、生物多様性条約、ミレニアム生態系評価プロジェクトの関係概要

ワシントン条約・ラムサール条約を含め各種条約 □ > 生物多様性条約(1992) — >

森林・農地・水産地域(里山)・都市+遺伝子—ミレニアム生態系評価プロジェクト(2000-2005)

— > 2010年生物多様性条約 COP10 愛知・名古屋

(省略)

### 3) 1980年後半から、生物多様性条約制定・採択前後における主要報告書

(黒坂が直接係った生物多様性・生態系に関する WRI 出版物日本語版及びセミナー等関連行事)

- (1) 『自然の恩恵: 開発と保全のための資金調達』(Natural Endowments: Financing Resource Conservation for Development) 大来佐武郎日本語版序文、日本環境協会、1989.
  - (2) 「選択の余地を残すために —生物の多様性保全の科学的根拠—(要約)」  
・(Keeping Options Alive: The Scientific Basis for Conserving Biodiversity) 1989
  - (3) 『地球環境安全保障—21世紀への提言』J.G.スペース、J.T.マシューズ著、黒坂編訳、岩波ブックレットNo.220、1991
  - (4) 『世界の生物の多様性を守る』池田周平・吉田正人翻訳、(財)日本自然保護協会、1991  
・“Conserving The World’s Biological Diversity” by Jeffrey A. McNeely, Kenton R. Miller, Walter Reid, Russell A. Mittermeier, Timothy B. Werner, 1990  
・“Biodiversity”の概念を日本で最初に紹介した1991年10月26日—11月1日までの行事一覧
- ① K・ミラー(WRI)、J・マクニーリー(IUCN)、A・ウマーニャ(WRI 理事、元コスタリカ天然資源相) 講演 1991年10月26日(土)(財)日本自然保護協会創立40周年記念国際セミナー「生物の多様性を守る」
  - ② K・ミラー(WRI)基調講演 1991年10月28日(月)–29日(火)環境庁主催、「生物学的多様性保護に関する東アジア地域ワークショップ—湿地の生物学的多様性に焦点をあてて」

- ・ ③ K・ミラー(WRI)特別講演 1991年10月30日(水)環境庁主催・日本学術会議共催、国際シンポジウム「生物学的多様性とその保全」
  - ・ ④ K・ミラー(WRI)主催集中ワークショップ (黒坂三和子 WRI 日本事務局)
  - ・ ⑤ 1991年10月31日(木)星陵会館、—11月1日(金)法曹会館  
この時、政策的概念として使われている“Biodiversity”をどのように日本語翻訳すべきか、意見交換が行なわれた
  - ・ 議員(堂本暁子参議院議員、GLOBE-Japan)、松下政経塾(宇佐美登)
  - ・ 政府・関連機関(外務省、環境庁、農林水産省、通産省、国際協力事業団、OECD、日本輸出入銀行)、
  - ・ 大学・研究機関(安部琢哉京都大学教授、森嶋昭夫名古屋大学教授、磯崎博司岩手大学教授、渡辺信国立環境研究所室長)
  - ・ 民間企業(市川博也経団連産業政策部部长、山越厚志)(長谷川雅世笹川平和財団)
  - ・ NGO(吉田正人日本自然保護協会、市田則孝日本野鳥の会、長尾自然環境財団、村田幸雄 WWF-Japan、)
  - (5) 『生命の樹』ケントン・ミラー著、熊崎実訳、岩波書店 1993 “Trees of Life”
  - (6) 『バイオダイバーシティ・プロスペクティング～持続可能な開発のための遺伝子資源の利用』仮訳  
翻訳・編集:黒坂三和子、菅野暁太、1993、”Biodiversity Prospecting: Using Genetic Resources for Sustainable Development“1991
  - (7) 『生物の多様性保全戦略 —地球の豊かな生命を未来につなげる行動指針』佐藤大七郎監訳  
中央法規 1993 ”Global Biodiversity Strategy: Guidelines for Action to Save, Study, and Use Earth’s Biotic Wealth Sustainably and Equitably“1992
  - (8) 『生物の保護はなぜ必要か—バイオダイバーシティ[生物の多様性]という考え方』藤倉良 監訳・解説、ダイヤモンド社、1994 (“Keeping Options Alive: The Scientific Basis for Conserving Biodiversity”1989)
  - (9) 『緑の料金 —税制改革によってどれほど環境と経済に影響を与えられるか』飯野靖四監訳、中央法規出版、1994. “Green Fees: How a Tax Shift Can Work for the Environment and the Economy “1992
  - (10) 『国家生物多様性計画策定ガイドライン—世界各国の初期の取り組みに基づく指針』  
日本語訳:WWFJapan& WRI 日本連絡事務所、1998 ”National Biodiversity Planning Guideline Based on Early Experiences around the World“1995
  - (11) 『最後の未開拓な森林—瀬戸際の生態系と経済—世界に残存する広大な天然森林生態系の現状(仮訳)』佐藤裕子、田川由紀子、WRI 日本連絡事務所訳、”THE LAST FRONTIER FORESTS: ECOSYSTEMS & ECONOMIES ON THE EDGE -What is the Status of the World’s Remaining Large, Natural Forest Ecosystems?“、1998
- ・Feb.9,1999 The Millennium Assessment of the State of the World’s Ecosystems,Steering

**Committee Meeting**

**Feb.,2000 The Millennium Ecosystem Assessment –Strengthening Capacity to Manage Ecosystems for Human Development, with IPCC, FAO, UNDP, UNEP, World Bank, WBCSD,CBD,ノルウェー・スエーデン・カナダ・米国各政府**

**June6,2000 ミレニウム生態系評価計画フォーラムー日本関係者(政府関係者、企業関係者、学者・研究者、財団法人関係者、NGO/NPO 関係者、メディア関係者)に説明**

(12) 『世界の資源と環境 2000–2001: 地球生態系と人類の未来』 沼田真・日高敏隆・新妻昭夫・中静透日本語版監修、WRI,UNEP,UNDP, 世界銀行、日経エコロジー “ World Resources 2000–2001: People and Ecosystems The Fraying Web of Life “ ,2000

(13) “ World Resources 2002–2004: Decisions for the Earth Balance, Voices, and Power “ , WRI, UNDP, ENEP, World Bank,

**March,2005 「ミレニアム生態系評価プロジェクト総合報告書」1300名の専門家が95ヶ国において調査 (UNEP) [www.millenniumassessment.org](http://www.millenniumassessment.org)、**